

研究発表もうしこみフォーム

氏名：イミン

氏名のローマ字表記：Emgenuud Imin

所属：昭和女子大学大学院（博士課程2年）

専門分野：モンゴル研究

発表のタイトル：マンライバートル・ダムディンスレンに対するモンゴル国の評価について

発表要旨（600字～800字程度）：

本報告では、現在のモンゴル国と中国の国境に跨って暮らしているバルガ・モンゴル人の20世紀における「民族」と「国家」のありかたを考察するにあたり、モンゴル独立に重要な役割を果たしたバルガ人ダムディンスレンに対するモンゴル国の評価を中心に分析する。ダムディンスレンは1912年の始め外モンゴルに赴き、同年、西部辺境のホブド解放戦争を指揮して勝利を収めるなど、モンゴル独立に重要な役割を果たしたためボグド・ハーン政権から「マンライバートル」という称号を与えられた。

モンゴル国は、1911年の独立から1921年以降の社会主義時代を経験し、現在の「モンゴル国」になる中で、モンゴル民族の独立のために戦ったダムディンスレンを「英雄」と評価していたことから「民族主義者」と批判した時代もあった。また、「外国人」として冷遇し、同じ独立運動を指導した外モンゴル出身者ほど評価しないこともあった。しかし、民主化以降、歴史の見直しが行われ、ダムディンスレンを「愛国者」と評価することが一般的になった。

20世紀初頭、モンゴル民族は内外モンゴル、バルガを含めた「モンゴル」の独立を目指していたため、バルガのダムディンスレンも重要な役割を果たせた。しかし、その後外モンゴル中心の国民国家が成立されるにつれて、「民族」の主張が出来なくなり、ダムディンスレンに対する評価も変わった。

このように、ダムディンスレンに対する評価自体が、「民族」と「国家」に揺れる20世紀初期のモンゴルの歴史を象徴し、それがまた「モンゴル民族」と「モンゴル国」のはざままで変容してきた20世紀におけるバルガの歴史とバルガ人の「民族」、「国家」についての考察に示唆的な意義をもつと考えられる。